



市長と おしゃべり しませんか？

今回は北星学園大学の
学生と、お話ししてきました。

テーマ

少子化でイイの？ ワルイの？どっちなの？

北星学園大学の学生が少子化に関する調査結果を発表し、市長・学生双方が次々と発言。

さながら大学の授業を思わせる活発な議論で会場は大いに沸きました。

このページについてのお問い合わせは、市民の声を聞く課 ☎211-2042へ。

内容は、市長のホームページ

www.city.sapporo.jp/city/mayorからもご覧いただけます。

■日時／6月19日(月)午後4時20分～6時

■会場／北星学園大学 ■参加総数／約70人

市の少子化対策の今後は？



なかの
中野さん

市が行っている少子化対策と、今後の取り組みについて教えてください。



さとう
佐藤さん

少子化の問題に関して、市長はわたしたち学生にどのような認識を持ってほしいと考えていますか。

市の少子化傾向は全国平均を上回るものの、結婚や子どもを生むことに対する学生の意識はおおむね積極的であるとの調査結果が発表されました。



市長
から

少子化は、社会の活力を低下させる深刻な問題。親子が交流できる子育てサロンなどの支援を進めるとともに、子育てと仕事を両立できるよう、企業への働き掛けを積極的に行っていきます。学生の皆さんには、子どもを生むことに対して前向きな気持ちを大事にしてほしい、その気持を実現できる社会にしていかなければならないと感じています。

働きながら子どもを育てられる社会に



てらさき
寺崎さん

寺崎さん: 育児が終わった後、仕事に復帰できるような体制を整えてもらえたらと思います。

市長: 民間企業の受け入れ体制の問題であり、市として理解を求めていきます。あなたは仕事をしながら子育てをしたいと思いませんか？

寺崎さん: はい。働くことで多くの方と出会いたいし、それまで学んできたことを生かしていきたいので。

市長: そうですか。男性から見てどうですか。女性が働き、男性も家事を担うことについては。

井上さん: 女性ばかりに家事をさせるわけにはいかない。男女平等にすべきだと思います。



いのうえ
井上さん

市長: わたしもそう思います。実際に子育てしながら市役所で働いている長谷川さんはどう思いますか。

長谷川: わたしは2人の子どもがいますが、仕事と両立するための支援は増えてきています。育児休業中は、大人と会話する機会が持てない辛さがあっただけに、仕事に復帰したときの喜びは大きいものでした。ぜひ女性の皆さんには、仕事を続けていただきたいですね。

市長: なるほど。子育て中は、ずっと家にいることで社会との接点が少なくなり、孤独感に悩まされると聞きます。皆さんにそういう時期が来たとき、一人で悩むことのないよう、支え合える街にしていきたいです。



うえだ
上田市長

札幌市子ども企画課
はせがわ
長谷川 係長

